

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(平成 24 年度事業)

平成 25 年 9 月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
II	山元町教育委員会の活動の概要	1
1	教育基本方針	1
2	教育重点施策	2
	(1) 学校教育の充実	2
	(2) 社会教育の活動推進	3
	(3) 地域文化の保護と活用	3
	(4) 社会体育と生涯スポーツの振興	3
III	主な事業の点検評価項目	3
1	教育委員会の活動	3
2	教育関係経費決算の状況	8
3	学校教育の充実	9
	(1) 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会の設置	9
	(2) 小学校及び中学校の防災教育	9
	(3) 学校給食	15
4	生涯学習の推進	
	(1) 生涯学習の充実	16
	(2) 生涯スポーツの推進	23
	(3) 魅力ある地域文化の醸成	26
	(4) 社会教育・社会体育施設の活用	30
IV	東日本大震災に伴う施設被害及び運用等	30
V	点検評価に対する学識経験者の意見	33
VI	参考法令	35

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

山元町教育委員会では、教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、事務事業の目的、目標、成果を明らかにし、目的妥当性、有効性、効率性の観点から評価を行うことで業務改善を進めることを目的とします。

また、「山元町教育委員会に関する点検評価報告書」を作成し、町議会へ提出し、併せて住民へ公表することで、より開かれた教育行政を推進します。

2 点検及び評価の対象

平成24年度の山元町教育委員会が所管する事業及び東日本大震災により取り組んだ事業を対象とします。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、平成24年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、実施にあたっては、山元町教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を毎年山元町議会へ提出し、かつ公表するものとします。

II 山元町教育委員会の活動の概要

1 教育基本方針

平成24年度山元町の学校教育、社会教育の原点は、3.11 東日本大震災の現況を踏まえ、今後の復旧・復興に向けた課題解決を優先に据えて、学校、家庭、地域、そして教育委員会の総力を挙げて取り組むことにする。

学校の運営については、津波で被災した学校の併設に加え、仮設住宅や学区外、他市町から通学する児童生徒が多数いることから、児童生徒や保護者の心身の負担等にも配慮しながら教育活動を展開していく。

特に、あの震災は、普段の学校や児童生徒たちと地域との繋がりがいかに重要であるかを改めて問われると同時に、今後の山元町の学校教育環境を大幅に見直すことになる学区の再編や学校の配置の適正化等に向けて欠かすことのできない大きな原点であることと考え、今後より一層学校と地域との協働を目指し学校教育、社会教育を推進していく。

一方、福島第一原発事故による放射能問題については、放射性物質汚染対処特別措置法に基づき除染実施計画を策定し、計画的に放射能物質の除染等の対策に取り組み、児童生徒や保護者の安全・安心を確保していく。

「英知」、「共生」、「健康」をスローガンとして掲げ、「生きる力」の育成を目指す学校教育、生きがいをもち、支え合う地域社会、基礎体力の向上と魅力あるスポーツの振興を重点目標として、その具現化に努めます。

また、地域の伝統文化の向上を図りながら、町民の生涯にわたる学習の充実に努めます。

山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成をめざします。

2 教育重点施策

学校教育と社会教育が連携・協働して教育基盤の再構築を図り、町民一人一人が自己実現を目指し、健康で生きがいに満ちた生涯学習社会を実現するために、次の施策を行います。

(1) 学校教育の充実

確かな学力・豊かな心・たくましい体をもった児童生徒の育成

- ① 未来を生き抜く力を育む創意ある教育課程の編成・実施・評価
 - ・新教育課程の実施に伴う授業時数の確保と指導の徹底及び適切な評価・改善・公表
 - ・基礎・基本の確実な定着と個性を伸ばす主体的学習及び体験的学習の展開
 - ・志教育・心の教育の推進
 - ・健康の保持増進と基礎体力の向上
 - ・防災（安全）教育と食育教育の推進
 - ・自立の基礎を培う特別支援教育の充実
- ② 創意と活力に満ちた学校経営と信頼される教職員
 - ・児童生徒の夢や希望の実現を目指す特色ある学校経営の推進
 - ・学校評価等を生かした、家庭・地域に開かれた学校づくりの推進
 - ・教職員の資質向上を目指した研修の充実
- ③ 学習環境の復旧・支援体制の強化
 - ・学習環境の復旧
 - ・危機管理体制の整備と改善
 - ・いじめや不登校のない学校・学級づくり
 - ・主体的な進路選択の指導
 - ・児童生徒の健全育成に係わる関係機関との連携

(2) 社会教育の活動推進

歴史と伝統ある地域の特性を生かした、町民の生涯にわたる学習を推進し、復興機運の醸成を図ります。

- ① 青少年の健全育成の推進
- ② 社会教育施設・設備の復旧と効率的活用
- ③ 協働教育事業の充実と社会参加の奨励
- ④ 学習意欲の高揚と学習活動への支援
- ⑤ コミュニティ意識の醸成と地域づくりへの支援

(3) 地域文化の保護と活用

かおり高い芸術文化のふれあいと創造を図るため、歴史が培ってきた芸術文化を尊重し、文化財の保護と活用に努め、次世代への継承支援を図ります。

- ① 芸術文化活動への理解と啓発促進
- ② 参加し創造する芸術文化活動の支援
- ③ 文化財の保存と史跡の環境整備の促進
- ④ 郷土の伝統文化の保護と後継者育成の支援

(4) 社会体育と生涯スポーツの振興

町民の主体的スポーツ活動を支え、活力ある地域社会を目指し、生涯スポーツの振興に努めます。

- ① 社会体育施設・設備の復旧と効率的活用
- ② 町民総参加による生涯スポーツの振興
- ③ 社会体育関係団体の組織活動の活性化
- ④ スポーツ指導者の育成と体制の整備

Ⅲ 主な事業の点検評価項目

1 教育委員会の活動

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した5人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。教育委員会には教育長が置かれ、教育委員会の指揮監督のもとにその事務を執行します。

教育委員会の会議は、毎月下旬に定例会を開催し（必要に応じて臨時会を開催します。）、各種議案の審議がなされるほか、教育長報告として各課の行事予定や実績報告等を行います。

また、小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

なお、この訪問の際には、教育委員が学校給食を実際に学級の中で児童生徒とともに食しながら教職員との意見交換の場を設けるなどして、指導・助言を行います。

(1) 教育委員会委員

職名	氏名	任期
委員長	高橋 建夫	平成22年10月1日～平成26年9月30日
職務代行者	島田 さゆり	平成21年7月1日～平成29年6月30日
委員	吉田 智恵子	平成17年10月1日～平成25年9月30日
委員	大内 悦夫	平成24年4月1日～平成28年3月31日
教育長	森 憲一	平成22年5月17日～平成28年9月30日

(2) 定例会の開催について

※主な審議事項を掲載

区分	期日	付議事件等
第1回定例会	平成24年4月25日	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成24年度臨時職員（教育委員会関係）の採用について ② 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会委員の委嘱について ③ 山元町奨学金貸与選考委員会委員の委嘱について ④ 山元町障害児就学指導審議会委員の委嘱について ⑤ 山元町社会教育委員の委嘱について ⑥ 山元町スポーツ推進委員の委嘱について ⑦ 山元町立学校教職員安全衛生管理規程について
第2回定例会	平成24年5月25日	<ul style="list-style-type: none"> ① 山元町立学校給食運営審議会委員の委嘱について ② 山元町立学校評議員の委嘱について ③ 平成24年度山元町奨学金貸与に係る奨学生の選考について ④ 学校プールを使用した授業の実施について ⑤ 第1回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明）
第3回定例会	平成24年6月26日	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成24年第2回山元町議会定例会（抜粋）について ② 平成24年度 第1回山元町社会教育委員の会議の報告について ③ 平成24年度 第1回山元町文化財保護委員会の会議報告について ④ 「未来まちづくり対話会」について ⑤ 平成25年度使用教科用図書に係る山元町教育

		委員会採択計画書について
第4回定例会	平成24年7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ① 奨学金の償還事務の状況について ② 教育功績者表彰規程に基づく表彰者について ③ 山元町教育委員会職員被服貸与規程について ④ 山元町志教育支援事業補助金交付要綱について ⑤ 第2回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明）
第5回定例会	平成24年8月27日	<ul style="list-style-type: none"> ① 山元町教育委員会に関する点検評価報告書について ② 第3回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明）
第6回定例会	平成24年9月25日	<ul style="list-style-type: none"> ① 山元町教育委員会教育長の任命について ② 第4回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明）
第7回定例会	平成24年10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ① 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会中間報告について ② 山元町小・中学校教育環境整備検討調査（中間報告）に基づく町内小中学校の方向性について ③ 第5回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明）
第8回定例会	平成24年11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ① 山元町障害児就学指導審議会の会議報告について ② 山元町区域外就学許可基準について ③ 第6回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明）
第9回定例会	平成24年12月26日	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成24年第4回山元町議会定例会について ② 定期監査の結果について ③ 坂元小学校の存続の要望書受理について ④ 山元町小・中学校教育環境整備検討調査（中間報告）に基づく町内小中学校の方向性について ⑤ 議決事項の取り消しについて ⑥ 山元町立学校の廃止に関し議決を求めることについて ⑦ 山元町立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例案について

		⑧ 第7回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明）
第10回定例会	平成25年1月25日	① 平成24年度2月補正予算（案）について ② 学校給食調理業務委託について ③ 放射能除染対策について ④ 山元町小・中学校教育環境整備検討調査における基本方針等のお知らせ（案）について ⑤ 町内通学路の安全対策一覧について ⑥ 第8回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明）
第11回定例会	平成25年2月21日	① 平成25年第1回山元町議会臨時会について ② 県費負担教職員の人事について ③ 平成24年度3月補正予算（案）について ④ 平成25年度教育関係当初予算案に対する意見聴取について ⑤ 平成25年度山元町教育基本方針について ⑥ 第9回 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会（資料内容説明） ⑦ 山元町町民体育館条例の一部を改正する条例案について ⑧ 山元町町民運動場条例の一部を改正する条例案について ⑨ 山元町町民プール設置条例を廃止する条例案について ⑩ 山元町町民運動場管理規則の一部を改正する規則について ⑪ 山元町町民プール管理規則を廃止する規則について ⑫ 山元町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について ⑬ 山元町立小学校及び中学校の通学区域に関する規則について ⑭ 山元町立小中学校の通学区域に関する基準を廃止する告示について ⑮ 山元町教育委員会処務規程の一部を改正する訓令について ⑯ 山元町教育委員会公印規程の一部を改正する訓令について ⑰ 平成25年度臨時職員（教育委員会）の採用募集について ⑱ 東日本大震災で被災し、就学困難な幼児・児童・生徒に対する支援事業にかかる要請書に

		<p>ついて</p> <p>⑱ 山元町町民プールの廃止に関し議決を求めることについて</p>
第12回定例会	平成25年3月26日	<p>① 平成25年第1回山元町議会定例会について</p> <p>② 山元町学校給食運営審議会の会議報告について</p> <p>③ 山元町いじめ問題対策委員会の会議報告について</p> <p>④ 山元町小・中学校教育環境整備検討調査「報告書」について</p> <p>⑤ 学校の廃止届の受理について</p> <p>⑥ 山元町立小中学校徴収金事務取扱規程について</p> <p>⑦ 山元町教育委員会教育相談員の委嘱について</p> <p>⑧ 山元町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>⑨ 山元町小・中学校教育環境整備方針について</p> <p>⑩ 県費教職員・町費教育委員会関係 人事調書について</p>

(3) 臨時会の開催について

第1回臨時会	平成24年4月3日	① 委員長の選任について
第2回臨時会	平成25年3月26日	<p>① 県費負担教職員の人事について</p> <p>② 一般職員の人事について</p> <p>③ 学校職員の措置について</p>

2 教育関係経費決算の状況

平成 24 年度決算額は、教育費 5 億 6,324 万 1 千円、前年度比 16.2 パーセントの増加でした。

主な増加理由としては、音楽活動を通じた夢と希望を育む事業皆増（両中学校）、坂元小学校講堂改築事業皆増、常磐道建設予定地内埋蔵文化財発掘事業増、等によるものです。

なお、東日本大震災の影響による災害復旧費、文教施設決算額は 1 億 1,803 万 8 千円です。

○目的別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成 24 年度		平成 23 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
教育総務費	75,257	13.4	59,549	12.3	15,708	26.4
小学校費	150,259	26.7	124,026	25.6	26,233	21.2
中学校費	135,066	24.0	117,860	24.3	17,206	14.6
幼稚園費	9,707	1.7	7,377	1.5	2,330	31.6
社会教育費	186,823	33.2	171,202	35.3	15,621	9.1
保健体育費	6,129	1.1	4,744	1.0	1,385	29.2
教育費 計	563,241	100	484,758	100	78,483	16.2
文教施設災害復旧費	118,038		61,188		56,850	92.9
教育関係経費 合計	681,279		545,946		135,333	24.8

○性質別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成 24 年度		平成 23 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
人件費	178,367	31.7	190,008	39.2	△ 11,641	△ 6.1
物件費	228,599	40.6	201,449	41.6	27,150	13.5
維持補修費	5,419	1.0	14,298	2.9	△ 8,879	△ 62.1
扶助費	31,151	5.5	31,753	6.6	△ 602	△ 1.9
補助費等	25,770	4.6	18,072	3.7	7,698	42.6
普通建設事業費	88,568	15.7	22,556	4.7	66,012	292.7
積立金	4,287	0.8	4,462	0.9	△ 175	△ 3.9
貸付金	1,080	0.2	2,160	0.4	△ 1,080	△ 50.0
教育費 計	563,241	100	484,758	100	78,483	16.2
文教施設災害復旧費	118,038		61,188		56,850	92.9
教育関係経費 合計	681,279		545,946		135,333	24.8

3 学校教育の充実

(1) 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会の設置

- ① 山元町小・中学校教育環境整備検討調査（報告書）
- ② 山元町小・中学校教育環境整備方針

(2) 小学校及び中学校の防災教育

—坂元小学校—

1 平成 25 年度の防災教育全体計画を作成するに当たって、特に震災の体験を踏まえたり、又は、検証した主な内容

- ① 学校の統合に伴い、職員数が大幅に減少することとなった。（平成 24 年度は 2 校併設状態）このことにより、職員の対策班編成を大幅に変更した。
- ② 震災の体験を踏まえ、児童引き渡しの仕方を見直した。特に大きな変更点は、高台避難をした場所での引き渡し訓練の実施。避難後に安全を確認した上での引き渡しを行うことの保護者への周知（学校は安全が確認されるまで児童引き渡しは行わないという学校方針を保護者会等で話す）。高台避難する際の高学年と低学年がペアを作り、手をつないで避難すること。

2 平成 24 年度の防災教育の主な実践の取組と反省点

① 休み時間における防災訓練（自助意識を高める）

休み時間に突然放送を流し、すばやく近くで安全な場所に移動し身をかがめて自分を守る訓練の実施。その後、学級において学年に応じた防災教育の授業を行った。平成 24 年度は 1 回だけであったが、年に数回あってもよいのではないかという意見が多かった。

② 学級ごとの防災教育授業の実施

低学年においては、学級や昇降口での危険な場所を知り自分の身の守り方を学習する。中学年においては、特別教室や廊下での危険な場所を知り自分の身の守り方を学習する。高学年においては、学校地図を利用して校内の危険箇所を見つけどのような行動が必要かを考えさせた。児童の発達段階に応じた防災教育カリキュラムの必要性を感じた。

③ 児童引き渡し訓練の見直し

上記②と同じ
災害時の想定がより必要である。

3 今後の課題

- ① 体育館を新しく建設することになっており、現在は避難所として機能することができない。体育館完成後には早急に実態に合った避難所開設のためのマニュアルが必要になる。
- ② 児童の実態に応じた防災教育をより充実していかなければならない。
- ③ 避難所開設を含め、地域との連携が不可欠である。そのために、地域との防災会議や合同防災訓練等を考えていく必要がある。

—山下小学校—

1 平成 25 年度の防災教育全体計画を作成するに当たって、特に震災の体験を踏まえたり、又は、検証した主な内容

- ① 山下第二小学校との併設となっているため、両校の教頭、防災主任をメンバーに防災計画作成委員会を組織し、平成 25 年度の防災教育計画について協議した。その中で共通の地震及び津波の際の行動マニュアルを作成した。マニュアル作成のポイントは職員、児童、保護者ともに分かりやすいものとなるよう配慮した。
- ② 平成 24 年度までは地震対応の避難訓練であったが、平成 25 年度は津波が襲来した場合を想定し、校庭に一次避難後、より安全な校舎内に避難する計画を立案した。(近くのみじ幼稚園も一緒に山下小学校の校舎内に避難する計画である。)
- ③ 避難訓練は、今まで校内放送を使用し実施していたが、停電により校内放送が使用できない場合を想定し、ハンドマイク等を使用して訓練を実施するようにした。

2 平成 24 年度の防災教育の主な実践の取組と反省点

- ① 一斉下校指導
 - ・風水害や不審者対応の一環として、一斉下校訓練を実施した。児童を地区(帰宅方面)ごとにグルーピングし、担当教員が引率し下校させた。途中の危険箇所や 110 番の家の場所も確認しながら実施した。
 - ・引き渡し訓練も実施しており、今後、児童を一斉下校させる機会があるかどうか反省点として出されている。
- ② 非常災害児童引き渡し訓練
 - ・「低気圧の接近により大雨と暴風雨のため児童だけで下校させることは危険」という想定のもとに実施。事前に学校からのたよりで訓練のことを知らせるとともに、当日はメール配信を行った。
 - ・教室での引き渡し方法は、保護者も教職員も理解できていた。
 - ・校庭の一方通行による車の移動や児童の安全確保に注意を要する。
- ③ 防災避難訓練
 - ・6月(地震)、11月(火災)の2回実施。平成24年度は煙体験を中学年で実施し、煙の怖さを実感した。副読本の活用について意見が出された。また、地震対応の避難訓練では、津波襲来の想定をしていなかったため、次年度は津波が襲来した場合の対応も考慮し計画を立案することとした。

3 今後の課題

- ① 併設状態であるため、今後両校が同一歩調で取り組むことができるよう連絡を密にする。(内容や役割分担における共通理解、共通行動)
- ② 避難所運営マニュアルを作る。備えるべき備品等の点検をする。(町危機管理室との連携)
- ③ 防災教育についての職員研修を実施する。

—山下第一小学校—

1 平成 25 年度の防災教育全体計画を作成するに当たって、特に震災体験を踏まえたり、又は、検証した主な内容

- ① 状況に応じた安否確認の方法を規定（一斉電子メールの配信や電話での確認他）
- ② 引き渡しについて保護者と事前にルールを規定（職員の対応や災害時の引き渡しについて、震度や津波警報発令等に応じて一定の約束事を規定した。）
- ③ 避難所運営マニュアル等の整備（避難所となった時の教職員の体制，具体的業務内容，備品リスト，使用教室，本部の場所等を明らかにした。）
- ④ 避難場所は複数個所を具体的に規定（体育館・校舎の屋上・高台等を規定した。）

2 平成 24 年度の防災教育の主な実践の取組と反省点

- ① 避難（防災）訓練での工夫
年 1 回，防災訓練を実施している。また，授業以外の時間（清掃中，休み時間等）でショートでの避難訓練も 2 回実施している。今後登下校時の避難も考えていく必要がある。
- ② 地域との合同避難（防災）訓練の実施
PTA・地域（学校評議員，PTA 役員，行政区長等に参加依頼）が関わった訓練で児童の避難の後，体育館の避難所の設営訓練，また緊急時にすぐに解錠できるように体育館のカギを PTA 役員にも依頼した。スムーズに実施できた。
- ③ 学校防災について全教職員で共通理解を図る機会の設置
職員会議・校内研究事後検討会等で学校防災について共通理解を図った。今後，さまざまな災害に対しての詳しい役割分担など詰めていく必要がある。
- ④ 防災・復興教育について校内研究としての取組
全学年による防災・復興教育の授業研究とカリキュラム作りを行ってきた。今後，学年ごとの整合性を見ながら，6 年間で必要な防災能力を育てていきたい。

3 今後の課題

- ① 4 月の PTA 総会で個人マニュアルを詳しく説明し，児童の登下校中の避難について家庭で話し合い，学校・家庭・児童が共通理解をすることにした。今後，実際に使ってみて，意見をいただきながら改善していきたい。
- ② どんなときに地震が起きるかわからないので，例えば体育館や昇降口などで地震が発生したらどうする？などの問いかけをしながら，様々な状況での避難を考えさせていきたい。

—山下第二小学校—

1 平成 25 年度の防災教育全体計画を作成するに当たって、特に震災の体験を踏まえたり、又は、検証した主な内容

本校は現在山下小学校との併設状態であるため、計画作成に当たっての取り組みは両校合同のものである。両校教頭・防災主任の 4 名で防災計画作成委員会を組織し、児童用・教職員用行動マニュアルや防災計画を見直すとともに全体計画を作成した。

そのポイントは、

- マニュアルは分かりやすいものとする。
 - ・「自分の命は自分で守る」という意識をもたせ、いざという時に自分の判断で具体的な行動がとれるような内容とする。
 - ・内容は、「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所への避難、強い揺れ・長い揺れのときは津波が来ることを想定し、より高いところへ避難する。避難場所は、在宅時と登下校時それぞれ具体的に記入し、最終的な我が家の避難場所も書く欄を設ける。
 - ・これらをラミネート加工して、いつでも見ることができるようランドセルに付けておく。他に家庭保管用も作り、いつでも見ることが出来る場所に貼ってもらう。
 - ・教職員用マニュアルは、授業中、休み時間、登下校時、勤務時間外の 4 種類を作成し、担当者と仕事内容・場所を時系列で明示。それらを色別にし、一目で分かるようにする。黄（校長・教頭）、ピンク（教務主任）、緑（学級担任・授業者）、水色（養護教諭）、ピンク（7 学年部）

2 平成 24 年度の防災教育の主な実践の取組と反省点

- ① 避難訓練
 - ・ 6 月（地震）、11 月（火災）の 2 回実施。皆真剣に取り組んだ。今年は、煙体験を中学年で実施。煙の怖さを実感した。副読本を活用し防災について理解を深めた。
- ② 引渡訓練
 - ・「低気圧の接近により大雨と暴風のために児童だけで下校させることは危険」という想定のもとに実施。事前に学校からのたよりで訓練のことを知らせるとともに、当日はメール配信を行った。メールの加入率は、100%。
 - ・教室での引き渡し方法は事前にマニュアルを配付していたので、保護者も教職員も理解できていた。
 - ・校庭での保護者の自動車の移動が安全にできるように注意を要する。

3 今後の課題

- ① 両校が同一歩調で取り組めるよう連絡を密にする。（内容や役割分担に違いがないように）
- ② 避難所運営マニュアルをつくる。備えるべき備品等の点検をする。（安全点検の見直し）
- ③ 防災教育についての職員研修を実施したい。

4 その他

- ① 昨年12月7日の津波警報発令時の対応
 - ・避難場所になった山下中学校、中央公民館に職員を派遣。児童の安否確認に努めた。そのことにより、児童はもとより、地域の方々に安心感と信頼感をもたれた。
- ② 避難訓練や学級活動で安全の副読本「わたしたちの安全」を活用
 - ・各学年人数分の副読本を購入。学年据え置きで使用している。
 - ・避難訓練の際に、事前の学習として「宮城県沖地震の様子」や「避難の仕方」、事後の学習として「避難訓練チェック表」を使った自己評価を実施した。これまでの担任による事後指導に児童の自己評価が加わったことで、自分の身を守る意識の高まりがみられた。

—坂元中学校—

1 平成25年度の防災教育全体計画を作成するに当たって、特に震災の体験を踏まえたり、又は、検証した主な内容

- ① 各教科・特別活動・道徳等で学年ごとに発達段階を踏まえて年間指導計画の中に、指導内容をどのように配当していくか、防災主任を中心に、内容と時期の検討を行った。
- ② 避難訓練について、平成24年度は授業時間中の発生を想定したもの2回（地震津波・火災）、休み時間を想定したもの1回（地震・津波）を実施したが、登下校中や休みの日の災害に対応する訓練も必要であるということで話し合い、時期等を検討した。平成25年度については地区ごとの避難訓練への参加を昨年度以上に多くするよう指導を行う。
- ③ 安全管理については避難場所・避難経路を再度検討し、避難訓練時の役割分担を確認した。実際に生徒と共に行う避難訓練の前段階として、教職員だけの訓練の練習を行い、動きを確認した。全職員がそろっている状態で災害が来るわけではないことを認識しながら、担当がいない場合の役割の分担についても確認し、練習を行った。

2 平成24年度の防災教育の主な実践と反省点

- ① 避難訓練
 - ・地震発生についての避難訓練では、常に津波を想定しての二次避難を行った。避難訓練の後、学級活動で校内の危険箇所の確認とその場所にいたと想定する場合の行動について話し合いを行った。
 - ・休憩時間に地震が起こったことを想定しての訓練を行った。各自がそれぞれの場所で適切な行動がとれるかどうか、また、職員の動きについても検証することができた。
 - ・地域合同の避難訓練への参加を呼びかけ、町地区・下郷地区での訓練に参加した。アンケート調査では地域の中での中学生としての役割について意識を向上させていることが伺えた。しかし、9月の大会前等は参加率が思わしくなかったため、部活動との連携を図っていきたい。

② 安全管理

- ・家庭調査票に各自の通学路を確認・記入させ、災害時の家族との連絡カードを作成して添付した。非常時の避難先・連絡先を話し合わせて記入させている。
- ・メール配信については加入率が高まり、80%以上に3学期の時点ではなっていたが、一部の未加入の保護者へのはたらきかけを行っていききたい。
- ・校舎各階の資料室に水・簡易食糧・防災備品等を備え、実際12月に地震が起き、3階に避難した際も、水・食糧の配付によって、生徒も落ち着いて過ごすことができた。

3 今後の課題

- ① 地域の防災訓練への参加率を高め、中学生としての行動の在り方、地域貢献の意識、休日・休業中の災害時の行動についての認識を深める。

避難所開設についてのマニュアルを作成中である。近い将来、坂元駅が完成した折には、坂元地区の中心的な重点避難拠点となることを見通し、作成したいと考える。

—山下中学校—

1 平成25年度の防災教育全体計画を作成するに当たって、特に震災の体験を踏まえたり、又は、検証した主な内容

- ① 本校に避難した方々から、避難所開設や運営の仕方についてアンケート調査を行った。
- ② 停電や電話等の不通により、情報収集することが困難になった。
- ③ 今回の震災のように、生徒が自宅等にいる場合の安否確認に手間取ったので、その場合のルールを決めておく必要がある。

2 平成24年度の防災教育の主な実践の取組と反省点

避難訓練を実施した。学校にいる場合は、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」ことを意識させながら訓練を行った。ただし、まだフラッシュバックする生徒もいることを配慮して指導した。

3 今後の課題

- ① 生徒の安否確認の方法が難しい。
- ・生徒が自宅にいる場合の確認方法として、緊急メールの使用を考えているが、携帯を登録しているのは保護者であるが、生徒が保護者と一緒には限らないので、その際手間取る可能性がある。
- ② 本校は今後も避難所となることを前提に考えると、
- ・学校職員だけでなく、行政職員、地域の方々も入った避難所開設に向けての話し合いや訓練が必要である。
 - ・備蓄品の確保が難しい。
- ③ 阪神淡路大震災の時は、震災3年後が心のケアを必要とする件数が最多であった。その3年目に向けて、生徒の心のケアが必要であり、職員も心のケアの研修会を行い資質を向上させていく必要がある。その前提として時間の確保が必要である。その一つの手立てとして、職員定数以上の配置（加配）により、研修の時間や生徒と向き合う時間の確保につなげる。

(3) 学校給食

町内給食施設については、坂元中学校給食調理室は坂元中学校及び坂元小学校、中浜小学校に給食を提供する「共同調理場方式」、また、山下中学校給食調理室では山下中学校及び山下小学校、山下第二小学校に給食を提供する「親子給食方式」を、さらに山下第一小学校は「単独調理場方式」を採用し、学校給食を管理運営していました。

また、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射能の影響を心配する児童生徒や保護者の不安に応えるとともに、学校給食の安全・安心を確保するため、食品放射能測定システム（NaIシンチレーション）の整備を実施した。

各小・中学校では、給食を通じて食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養うための栄養教育等に取り組みました。

学校給食の概要について

1. 給食回数

小学校 174回～179回

中学校 168回～180回

2. 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食 週1回（水） 麺給食併用

3. 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品等

保護者負担 小学校 270円（児童1人 1食あたり）

中学校 310円（生徒1人 1食あたり）

4. 食材の放射能物資検査について

食品放射能測定システムによるセシウム137等の検査

平成24年4月25日より週2回、2種類の検査、延べ78回実施

検査結果は、いずれも不検出

5. 米飯・パン業者の変更

これまでの亘理製菓（亘理町）も業務辞退に伴い

米飯は、加賀屋（名取市）、パンは、ささもり菓子舗（角田市）に変更

4 生涯学習の推進

(1) 生涯学習の充実

生涯学習分野においては、教育方針を基に社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点政策として、地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。特に、今年度は、コーディネーターを2名配置し、協働教育の連携強化を図りました。

また、東日本大震災の影響により、これまで取り組んできた生涯学習の機会や生涯学習施設・体育施設の提供が難しい状況となったため、住民や各種社会教育団体などの利用者が、安全に安心してこれまでどおりの活動が再開出来るよう各施設の復旧を図りながら、支援に努めました。

① 家庭教育の活性化

協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、そして行政が一体となって家庭教育の活性化に努めました。

ア. 家庭教育事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子育てひろば「きらり☆」 (乳幼児と保護者対象)	6/14 ～ 11/8	6	20組 43人	延べ：大人67人 子ども87人 協力：家庭教育支援チーム「夢ふうせん」
2	家庭教育・幼児学級 (来春就学予定の幼児と保護者対象)	6/13 ～ 2/15	3	95組 191人	延べ：大人277人 子ども276人 協力：家庭教育支援チーム「夢ふうせん」 町内4小学校で実施
3	ピアノ弾き語りコンサート～ 家族の絆を感じるひととき～	2/16	1	50人	共催：家庭教育支援チーム「夢ふうせん」

イ. 保育所及び幼稚園における家庭教育の推進事業

No.	事業名等	期間	回数	参加者数	備考
1	大道芸公演(やまもと幼稚園)	11/6	1	130人	鑑賞者：園児、保護者、なかよし会会員
2	親子ビクス(南保育所)	1/19	1	85人	内訳：園児 30人 保護者 55人
3	親子で楽しく食育コンサート (北保育所)	2/9	1	118人	内訳：園児 60人 保護者 58人

ウ. 家庭教育支援事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子育てサポーター養成講座	8/30 ～ 10/10	3	3人	主催：宮城県教育委員会 2人講座修了
2	子育てサポーター リーダー養成講座	9/4 ～ 12/7	4	2人	主催：宮城県教育委員会 2人講座修了
3	子育てサポーター・サポーター リーダーフォローアップ研修 会	2/1	1	4人	主催：宮城県教育委員会
4	子育てサポーターリーダーネ ットワーク研修会	7/18 ・ 2/1	2	各回1人	主催：宮城県教育委員会
5	育児サークル「なかよし会」運 営補助	毎週 木曜 日	4回/ 月	親子 18組	乳幼児の親子対象に活動支援

※子育てサポーターを中心に山元町家庭教育支援チーム「夢ふうせん」を設立し、活動の拡充を図りました。

※子育て通信紙「夢ふうせん」（年6回）の発行を行いました。

※図書室開放「こどものひろば」（月1回/年9回）を実施しました。

② 青少年学習活動の支援

協働教育の一環として、青少年の学習、社会活動への参加を促進するため、活動場所や指導者の確保、情報の収集・提供等の学習環境の整備充実に努めました。

また、各種イベント活動・ボランティア活動・まちづくり活動等の自主活動の活性化のために、青少年関係団体の育成や集団活動の支援に努めました。

ア. 生涯学習指導者養成事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	インリーダー講習会 (小学5年生対象)	2/23 ～ 2/24	1	7人	会場：宮城県蔵王自然の家 協力：山元ボランティアサークル虹
2	ジュニア・リーダー 中級研修会	7/31 ～ 8/1	1	2人	会場：宮城県婦人会館 主催：宮城県教育委員会
3	ジュニア・リーダー 上級研修会	12/25 ～ 12/27	1	5人	会場：宮城県蔵王自然の家 主催：宮城県教育委員会

4	学校開放 「やまもと楽校」	11/18	1	60人	会場：坂元中学校 協力：町内学校教職員(15名)
5	放課後児童クラブ指導員等ブ ック研修会	6/26	1	6人	主催：宮城県教育委員会
6	放課後子ども教室指導者等研修 会	11/15	1	4人	主催：宮城県教育委員会
7	放課後児童クラブ指導員研修会	12/20	1	1人	主催：宮城県教育委員会

イ. 主催事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	山元町成人式 (中央公民館)	1/13	1	127人	成人者による実行委員会を 組織し、アトラクション実施 等の運営を行った。

ウ. 補助事業関係

No.	事業名	期間	回数	登録者数	備考
1	みやまっこクラブ (山下小・山一小・山二小対象)	5/7 ～ 3/4	28	36人	会場：山下第一小学校 延べ842人参加 活動スタッフ数13人 延べ151人
2	はまっこキッズ (坂元小・中浜小対象)	5/11 ～ 3/1	30	27人	会場：坂元小学校他 延べ502人参加 活動スタッフ数10人 延べ191人

③ 青年活動の推進

青年による自主的な文化（音楽）活動の促進に繋がるよう、発表の場の提供を行
いながら、活動の支援に努めました。また、青少年が自主的活動を行うための施設
環境整備を行いました。

ア. 主な事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	青年活動活性化事業 「勤労ロビーミニコ ンサート」	10/7 ～ 2/3	3	延べ107 人	会場：勤労青少年 ホームロビー

イ. 山元町勤労青少年ホーム音楽室エアコン移設設置工事

- 概要 山元町勤労青少年ホーム2階音楽室へエアコンを移設設置
- 工期 平成24年6月26日～7月31日
- 費用 197,400円

④ 地域と世代間交流・学習活動と発表の場の充実

子どもから大人（高齢者）まで潤いと生きがいのある生活を取り戻せるよう、健康・教養・趣味等の学習ニーズに対応できる学習・実践・発表機会の拡充と地域や世代間交流の推進と支援に努めました。

ア. 共催実施事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子どもも大人もみんなで遊び隊～音楽とスポーツで遊び隊～	5/5	1	300人	会場：少年の森 主催：子どもも大人もみんなで遊び隊 共催：生涯学習課
2	子どもも大人もみんなで遊び隊	8/5	1	791人	会場：中央公民館他 主催：子どもも大人もみんなで遊び隊 共催：生涯学習課
3	第21回坂元公民館まつり	2/2・2/3	1	907人	主催：坂元公民館まつり実行委員会 共催：坂元公民館

イ. 高齢者向け実施事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	悠々ライフ やました (山下地区 60歳以上対象)	7/30 ～ 12/7	6	23人	延べ83人 主催：山元町老人クラブ連合会 共催：中央公民館
2	悠々ライフ さかもと (坂元地区 60歳以上対象)	7/25 ～ 12/13	6	29人	延べ83人 主催：山元町老人クラブ連合会 共催：坂元公民館
3	ニュースポーツ大会	11/5・11/21	2	延べ56人	主催：坂元地区老人クラブ連合会 共催：坂元公民館

⑤ コミュニティ振興関係事業

コミュニティ関係団体及び事業参加者に対し補助金の交付を行うとともに、関係機関へ応分の負担を行いました。また、コミュニティ関係団体の活動を支援し、活性化に努めました。

ア. コミュニティ関係団体に対する補助金交付

No.	団体名称	金額
1	すばらしいやまもとを創る協議会	70,000円
2	山元町国際交流協会	100,000円

イ. 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者負担金

No.	事業名称	金額	備考
1	第16回姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会	25,000円	参加者5名 (@5,000×5名)

ウ. コミュニティ関係機関に対する負担金

No.	団体名称	金額
1	宮城県国際交流協会	12,412円

⑥ 情報通信技術（ICT）推進事業

協働教育の事業として情報通信機器と通信技術を利用した、新たな情報コミュニケーションの学習する場を提供し、地域コミュニティ再生の一助となることを目標に事業を行いました。

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	ICT推進事業① 仮設住宅(7ヶ所)対象	9/8 ～ 10/20	各1回	延べ47人	会場：町内仮設住宅集会所
2	ICT推進事業②基本 技術コース (山下地区編)	10/21 ～ 12/15	3	39人	延べ106人 会場：山下中学校 協力：山下中学校生徒
3	ICT推進事業③ 基本技術コース (坂元地区編)	10/21 ～ 12/16	3	19人	延べ50人 会場：坂元公民館 協力：坂元中学校生徒
4	ICT推進事業④ 活用コース (山下地区編)	11/17 ～ 2/9	3	25人	延べ66人 会場：山下中学校 協力：山下中学校生徒
5	ICT推進事業⑤ 活用コース (坂元地区編)	11/24 ～ 2/10	3	9人	延べ22人 会場：坂元公民館
6	ICT推進事業⑥ 親子コース	2/9 ～ 2/10	2	親子3組 6人	延べ親子6組・12人 会場：中央公民館 協力：山元ボランティアサークル虹

⑦ 学校教育支援〔主に生涯学習課が関わった事業を掲載〕

町内小中学校の要望に応じて、コーディネーターを通じ、積極的に指導者や安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の推進を図りました。

No.	学校名	学年	期間	内容	備考
1	山下小	3	9月～ 10月	和太鼓演奏	11回実施 指導者1名
		2	11/15	まち探検安全見守り・引率	ボランティア6名
		3・4	11/28	マラソン大会安全見守り	ボランティア5名
		1・2	12/7	マラソン大会安全見守り	ボランティア6名
		6	12/10	盲目のドラマーの講話・体験	指導者2名

		5・6	12/12	マラソン大会安全見守り	ボランティア 6名
		3	2/6	校外学習安全見守り	ボランティア 4名
		1～5	2/13	外国人による世界の遊び	指導者 5名 山二小と合同開催
		3	3/12	當護稲荷大神楽による出前授業	指導者 4名
		4～6	5月～ 2月	トランペット指導	30回実施 指導者 4名
2	山一小	1～6	11/13	国際理解教育	指導者 4名
		3～6	11/16	盲導犬学校キャラバン	指導者 3名
		-	12月	ベルマーク整理	ボランティア 4名
		1～6	2/12	車イスバスケット宮城 MAX 出前授業	指導者 3名
3	山二小	1	10/15	PTA 親子行事創作活動	指導者 1名
		4	10/23	町の特産品の学習(出前授業)	指導者 1名
		3～4	11/8	盲導犬学校キャラバン	指導者 3名
		1～2	2/27	ハーモニカコンサート	指導者 2名
4	坂元小	3	11/7	盲導犬学校キャラバン	指導者 3名 中浜小と合同開催
		3	5月～ 11月	リンゴの学習	4回実施・指導者 1名 中浜小と合同で実施
		5	6月～ 2月	いちごの学習	5回実施・指導者 1名 中浜小と合同で実施
5	中浜小	3～6	5月～ 12月	神楽の学習	3回実施 指導者 4名
6	山下中	1	10/29	PTA 行事「携帯電話安全講習会」	指導者 1名
		1	11/1	盲導犬学校キャラバン	指導者 3名
7	坂元中	3	1/22	琴演奏	指導者 1名
		3	1/15・ 1/22	話し方学習	指導者 1名

⑧ 社会教育関係団体の育成・支援

社会教育関係団体の育成と社会教育推進及び公民館の安全運営のために各協議会等へ参加し、情報交換等を行うとともに、各団体の自主的活動への側面支援を行い社会教育事業の振興に努めました。

ア. 社会教育関係団体に対する負担金

No.	団体名称	負担金額	備考
1	仙台教育事務所管内社会教育委員連絡協議会	10,000円	
2	仙台管内子ども会育成連絡協議会	10,000円	
3	青少年のための宮城県民会議	0円	震災により負担金無し

イ. 公民館関係団体に対する負担金

No.	団体名称	負担金額	備考
1	亘理地区防災安全協会	6,000円	
2	宮城県公民館連絡協議会	5,400円	
3	宮城県町村会	5,000円	全国公民館振興市町村長連盟会員負担金

ウ. 社会教育関係団体等育成のための補助金交付・事業参加補助状況

No.	育成団体	補助金交付額	備考
1	山元町連合父母教師会	20,000円	P T A活動
2	山元ボランティアサークル虹	21,000円	奉仕活動(高校生) 子ども会育成指導等
3	なかよし会	13,000円	親子共同保育
4	山元町坂元地区高校生親の会	13,000円	地区内高校生の健全育成
5	亘理地区少年補導員協会	68,000円	少年指導
6	山元町老人クラブ連合会	309,000円	友愛活動、スポーツ活動ほか
7	各単位老人クラブ連合会	242,500円	5団体
8	すばらしいやまもとを創る協議会	70,000円	地域活性化活動
9	ジュニア・リーダー中級研修会	6,204円	参加者数2人
10	ジュニア・リーダー上級研修会	17,500円	参加者数5人

⑨ 生涯学習課直営による各施設等の環境整備（緊急雇用創出事業活用）

生涯学習課が所管する各施設（町指定文化財等含む）の草刈り作業・剪定（枝払い）作業・簡易的な修繕作業等を実施するため、4名の臨時職員を雇用し、年間を通して各施設等の環境整備を実施しました。

⑩ 社会教育施設の復旧工事及び修繕

震災の影響により、被害を受けた社会教育施設等の復旧工事及び施設の修繕を実施し、利用者が安全に安心して生涯学習施設を利用できるよう環境整備に努めました。

ア. 復旧工事等、主な社会教育施設の修繕

(1) 山元町勤労青少年ホーム自動ドア修繕工事

- 概要 山元町勤労青少年ホーム入口自動ドアの修繕
- 工期 平成24年8月6日～10月31日
- 費用 283,500円

(2) 山元町勤労青少年ホーム災害復旧工事

- 概要 山元町勤労青少年ホーム館内クラック、ひび割れの原状復旧
- 工期 平成24年8月30日～10月31日
- 費用 222,600円

(3) 山元町勤労青少年ホーム玄関屋上防水修繕工事

- 概要 山元町勤労青少年ホーム玄関屋上の防水修繕
- 工期 平成24年8月6日～10月26日
- 費用 758,100円

(4) 山元町中央公民館災害復旧工事

- 概要 山元町中央公民館大ホール天井の原状復旧及び館内クラック、ひび割れの原状復旧
- 工期 平成24年7月30日～10月31日
- 費用 7,455,000円

(5) 山元町中央公民館災害復旧工事監理業務委託

- 概要 山元町中央公民館災害復旧工事实施に伴う監理業務委託
- 期間 平成24年7月30日～10月31日
- 費用 1,522,500円

(6) 山元町中央公民館敷地内法面測量調査設計業務委託

- 概要 山元町中央公民館敷地内法面の測量調査設計業務委託
- 期間 平成24年6月15日～12月14日
- 費用 9,265,200円
- ※ 復旧工事の実施は、計画的に平成25年度に実施する予定

イ. 震災により被災した社会教育施設の状況等

- (1) 中央公民館の被害は、全館鉄筋コンクリート造りであるために、クラック（ひび）の補修と、特に大ホールの天井修繕工事を実施しました。
- (2) 中央公民館南側敷地法面が崩落したため、復旧にかかる設計委託業務を行いました。復旧工事の実施は、計画的に平成25年度に実施する予定です。

(2) 生涯スポーツの推進

震災の影響により各体育施設が被災したため、運動場の確保が難しい状態となり、これまで通りスポーツに取り組む機会の確保が難しい状況となりました。このような状況を踏まえ、子どもから高齢者までスポーツに親しむことのできる環境整備を行うため、体育施設の復旧を図りながら、これまで取り組んできた学校との連携を強化しながら、運動の出来る場所の提供に努めました。

また、生涯スポーツの振興を図るため、各種スポーツ団体への活動支援や仮設住宅の集会場を会場とした、ニュースポーツ体験等を開催し、スポーツ推進に努めました。

① スポーツ活動の推進

町民の健康増進とスポーツの普及発展を図るためスポーツ大会等を開催しました。

また、日頃運動不足になりがちな各仮設住宅にお住まいの方々に声掛けを行い、ニュースポーツの普及に努めました。

ア. 事業実施状況

NO	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	ニュースポーツ 仮設住宅出前教室 (6ヶ所)	8/3 ～ 3/11	8	延べ114名	会場：各仮設住宅集会所 指導者：スポーツ推進委員
2	スポーツ少年団入団式及びスポーツテスト	5/27	1	119人	会場：山下小学校校庭及び体育館
3	スポーツ少年団ミニオリンピック	10/21	1	142人	会場：坂元中学校校庭
4	10,000人寒稽古	1/20	1	80人	会場：山下中学校体育館
5	ニュースポーツ体験会	11/23	1	129人	会場：歴史民俗資料館前広場
6	山元町新地町親善少年剣道大会	廃止	-	-	
7	宮城ヘルシー2012 ふるさとスポーツ祭仙台管内大会	8/26	1	28人	会場：宮城県総合運動公園 主催：宮城県・財団法人宮城県スポーツ振興財団・宮城県スポーツ推進委員協議会ほか

② スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体組織への助成や全国大会に出場する選手に賞賜金を交付し、スポーツ振興を推進しました。

ア. スポーツ競技者及び団体等への補助金等交付状況

NO	育成団体・個人	補助金等名称	交付額	備考
1	山元町体育協会	山元町体育協会補助金	1,246,000円	加盟13団体
2	全国大会等出場者	全国大会等出場補助金	115,000円	個人13件 1団体
3	各地区区長	地域スポーツレクリエーション振興補助金	60,000円	6地区 (各10,000円)

③ 体育施設等の除染状況

山元町除染実施計画に基づき、利用者が体育施設を含む、生涯学習課所管施設（3施設）を、安全に安心して利用できるように放射能除染を実施しました。

No.	施設名	内 容
1	深山山麓少年の森	表土剥ぎ取り及び被覆(4,300㎡) 側溝清掃(388m) 雨樋清掃(75m) 委託料 7,925,568円
2	真庭グラウンド	表土剥ぎ取り及び被覆(4,900㎡) 側溝清掃(162m) 雨樋清掃(110m) 委託料 6,294,420円
3	山寺深山グラウンド	表土剥ぎ取り及び被覆(3,700㎡) 側溝清掃(60m) 委託料 5,488,711円

④ 体育施設災害復旧等の実施状況

震災の影響により、被害を受けた体育施設の復旧工事及び施設の修繕を実施し、利用者が早期にスポーツを楽しめるよう環境整備に努めました。

ア. 復旧工事等、主な体育施設の修繕

(1) 山元町体育文化センター建具修繕工事

○概 要 山元町体育文化センター事務室入口扉の建具修繕

○工 期 平成25年1月24日～2月28日

○費 用 203,700円

〔施設利用状況 開館日数 59日(H25.2.1～H25.3.31)〕

(2) 山元町体育文化センター消防設備修繕工事

○概 要 山元町体育文化センター屋外消火栓・誘導灯等修繕

○工 期 平成25年1月25日～3月27日

○費 用 596,400円

(3) 山元町体育文化センター災害復旧工事

○概 要 山元町体育文化センターアリーナ床面原状復旧及び館内クラック、ひび割れの原状復旧

○工 期 平成24年7月30日～11月28日

○費 用 11,342,100円

(4) 山元町体育文化センター災害復旧工事監理業務委託

○概 要 山元町体育文化センター災害復旧工事実施に伴う監理業務委託

○期 間 平成24年7月30日～11月28日

○費用 1,207,500 円

(5) 山元町体育文化センター柱頭鉄筋探査調査業務委託

○概要 山元町体育文化センター柱頭鉄筋探査調査の業務委託

○期間 平成 24 年 8 月 8 日～9 月 28 日

○費用 220,500 円

イ. 震災により被災した社会体育施設の状況等

- (1) 体育文化センターは、復旧事業を実施し、平成 25 年 2 月 1 日から貸館を再開しました。
- (2) 町民グラウンド及びテニスコートは、昨年度に引き続き、応急仮設住宅用地及び防災物資の倉庫等に利活用しています。
- (3) 第二体育館及び笠野海浜グラウンドは、東日本大震災の津波により流出したため、用途を廃止しました。また、町民プールも東日本大震災の地震により全壊したため、同様に用途を廃止しました。今後は、復興計画に基づき、用途廃止後の跡地についての活用について、検討を進めます。

(3) 魅力ある地域文化の醸成

本町ではより豊かな地域社会を創出するため、伝統文化の保存・継承、新しい地域文化の創造・発信、町民文化活動の育成などの支援、伝統芸能保存団体などの育成、町民個人と文化活動との出会いや文化活動に関わる人と人との交流の促進に取り組んできました。

しかし、震災の影響により、津波で伝統道具や資材が流失するなど伝統文化の保存、継承が危ぶまれる状況となりました。このような状況を踏まえて、昨年度から町内の伝統芸能保存団体の再興を目的に無形文化財保存団体等による情報交換会を実施してきましたが、今年度からはこの情報交換会を「山元町無形文化財復興協議会」と称して、改めて情報交換を密にし、各支援団体から補助を受けることなど具体的な再興に向けて協議する場を設けました。

また、町内には、縄文時代の北経塚遺跡や古墳時代から近世の的場・石垣遺跡といった埋蔵文化財をはじめとする多くの文化財が残されており、これは山元町の歴史と文化の原点とも言えるものであり、これらの文化遺産の保存と活用に努めました。

① 芸術文化活動の推進

子どもたちが本物の芸術を鑑賞することにより、芸術のすばらしさと感動を体験し、夢と可能性を追求することの大切さを学ぶ機会を提供しました。

ア. 芸術文化活動事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	芸術銀河 2012 「美術ワークショップ」 (北保育所)	9/7	1	28 人	主催：みやぎ県民文化創造 の祭典実行委員会

2	宮城県巡回小劇場「東京金管五重奏団」 (山下小・山二小)	10/17	1	366 人	主催：宮城県教育委員会 共催：山元町教育委員会
3	次代を担う子どもの文化芸術体験事業「児童劇 おこんじょるり」 (山一小)	10/18	1	123 人	文化庁委託事業 事前ワークショップ 7/2
4	芸術文化体験教室（9教室）	H24.10 ～ H25.2	述べ 45	46 人	延べ 216 人 主催：山元町文化協会 共催：山元町教育委員会
5	芸術銀河 2012 「美術ワークショップ」 (南保育所)	10/30	1	29 人	主催：みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会
6	次代を担う子どもの文化芸術体験事業「ピアノ・フルートの演奏」 (坂元小・中浜小)	11/1 ・ 11/2	2	延べ 160 人	文化庁委託事業
7	第 16 回文化推進事業「アロージャズオーケストラコンサート」	11/3	1	300 人	主催：山元町文化協会
8	第 36 回町民文化祭	11/23 ～ 11/25	1	3,000 人	主催：山元町文化協会
9	次代を担う子どもの文化芸術体験事業「中部フィルハーモニー交響楽団」(坂元中)	12/6	1	118 人	文化庁委託事業 事前ワークショップ 7/11
10	次代を担う子どもの文化芸術体験事業「マジックショー鑑賞会」(坂元小・中浜小)	1/16	1	53 人	文化庁委託事業
11	新春俳句大会	1/27	1	14 人	主催：若菜俳句会 共催：坂元公民館

② 文化財の保存・保護

ア. 埋蔵文化財の保護（常磐自動車道関係）

常磐自動車道建設等に伴う 4 箇所の埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録の保存を行いました。

NO	遺跡名	行政区	調査期間	調査面積	備考
1	谷原遺跡	山寺区	H24.4.2 ～ 8.31	約 3,200 m ²	

2	日向北遺跡	山寺区	H24. 5. 7 ~ 6. 26	約 1, 450 m ²	
3	中筋遺跡	鷺足区	H24. 8. 9 ~ 12. 19	約 4, 000 m ²	

イ. 埋蔵文化財の保護（復興交付金関係）

東日本大震災に伴う防災集団移転、公共ゾーン等の開発の復興事業や被災した個人の住宅再建等に伴い破壊される恐れのある埋蔵文化財について、復興交付金を活用し、その発掘・調査・記録を行いました。

NO	遺跡名	行政区	調査原因	調査期間	調査面積	調査内容
1	大平遺跡	大平区	個人住宅造成工事	H24. 4. 18	約 90 m ²	確認調査
2	大平館跡	大平区	個人住宅造成工事	H24. 7. 19	約 50 m ²	確認調査
3	小平館跡	小平区	個人住宅造成工事	H25. 3. 21 ～ 3. 28	約 450 m ²	確認調査

ウ. その他の埋蔵文化財の保護（常磐自動車道・復興交付金事業関係を除く）

(1) 北経塚遺跡（小平区）

- 調査事由：コメリ山元店建設工事（※現地調査：平成 23 年度完了）
- 事業主：株式会社コメリ（業務内容：報告書作成業務）
- 業務期間：平成 24 年 4 月 11 日～平成 25 年 3 月 31 日
- 業務費用：299, 250 円

(2) 小平館跡（小平区）

- 調査事由：宅地造成工事
- 事業主：(株)仙南ベニヤ（業務内容：現地発掘調査）
- 調査面積：約 1, 000 m²
- 業務期間：平成 25 年 2 月 21 日～平成 25 年 3 月 1 日
- 業務費用：事業主直接負担

(3) 鷺足館跡（鷺足区）

- 調査事由：土砂採取工事
- 事業主：(株)深山総合開発（業務内容：現地発掘調査）
- 調査面積：約 700 m²
- 業務期間：平成 25 年 2 月 22 日～平成 25 年 3 月 8 日
- 業務費用：事業主直接負担

エ. 文化財包蔵地の環境整備

2ヶ所（井戸沢横穴墓群・中島館跡）の遺跡標柱の建て替えや、中島館跡・愛宕山館跡・大條氏御廟・茶室等の草刈り、枝払い等を実施し環境整備を実施しました。

③ 伝統文化の保存と展示・活用と活動場の環境整備

歴史民俗資料館は震災の影響により、収蔵資料が散在したため、一日でも早い開館を目標に資料の整理を進め平成 25 年 5 月 1 日から開館を再開しました。

また、施設利用者や関係利用団体の快適な施設利用と収蔵物資料の適切な保存を目的に施設の空調設備を整備しました。

(1) 山元町歴史民俗資料館空調設備更新工事

- 概 要 山元町歴史民俗資料館空調設備の更新
- 工 期 平成 24 年 5 月 18 日～9 月 28 日
- 費 用 7,478,100 円

(2) 山元町歴史民俗資料館空調設備送風ダクト修繕工事

- 概 要 山元町歴史民俗資料館空調設備送風ダクトの修繕
- 工 期 平成 24 年 8 月 29 日～9 月 28 日
- 費 用 564,900 円

④ 民俗芸能団体の育成

町内の伝統芸能保存団体の情報交換会（山元町無形文化財復興協議会）を実施するとともに、補助金の交付を行い、伝統文化の保存・育成を図りながら、これまで通りの活動が再開できるよう文化財行政団体との連携を図りながら、支援に努めました。

ア. 文化財行政団体への負担金状況

NO	育成団体名称	補助金交付額	備 考
1	宮城県史跡整備市町村協議会	4,500 円	
2	宮城県博物館等連絡協議会	9,500 円	
3	宮城県南資料館等連絡協議会	5,000 円	

イ. 伝統文化保存団体等へ育成支援のための補助金交付状況

NO	育成団体名称	補助金交付額	備 考
1	山元町文化協会	280,000 円	
2	坂元おけさ保存会	10,000 円	伝統芸能継承保存
3	坂元神楽保存会	10,000 円	伝統芸能継承保存
4	山寺深山神楽保存会	10,000 円	伝統芸能継承保存

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

震災によって、ほとんどの社会教育・社会体育施設は、被災した状況でありながら、避難所や物資倉庫として活用しましたので、施設の運用・運営に大きく影響を受けました。

このような状況であったため、町民の生涯学習活動・スポーツ活動の拠点施設である社会教育・社会体育施設の早期復旧整備を進めながら、可能な限り施設を開放し、より良い施設の活用が再開できるように努めました。

ア. 社会教育施設利用状況

施設名	前年度利用者数	H24年度利用者数
中央公民館	24,408人	33,289人
勤労青少年ホーム	4,095人	8,826人
坂元公民館	7,886人	17,003人
深山山麓少年の森	13,990人	14,262人
歴史民俗資料館	—	2,287人

※歴史民俗資料館 平成25年5月1日開館を開始しました。

※ふるさと伝承館 思い出回収事業と並行し、貸館等を開始しました。

イ. 社会体育施設利用状況

施設名	前年度利用者数	H24年度利用者数
山寺深山グラウンド	2,813人	4,449人
真庭グラウンド	1,220人	2,803人

※第二体育館・町民プールは、震災の影響により取り壊しを行い、用途廃止をしました。

※体育文化センターは、支援物資倉庫で使用しておりましたが、災害復旧工事を終え平成25年2月1日より貸館を再開しました。

※町民グラウンドは、応急仮設住宅で使用しているので、使用ができない状況です。

IV 東日本大震災に伴う施設被害及び運用等

平成23年3月11日午後2時46分、太平洋三陸沖を震源とした東北地方太平洋沖地震が発生し、山元町では震度6強の揺れを記録するとともに、この地震によって大規模な津波が発生し、沿岸部にある建物等を中心に甚大な被害を受けました。

① 学校施設の被害状況

東日本大震災において、各小中学校校舎内外にひび割れや地盤沈下等の被害が発生しました。津波により被災した中浜小学校及び山下第二小学校の災害復旧事業については原形に復旧することが著しく不相当である場合と文部科学省より判断されました。

中浜小学校は坂元小学校に、山下第二小学校は山下小学校に併設して4月25日に始業式を開始し、授業を再開しました。

学校名	建物等の状況	備 考
坂元小学校	<ul style="list-style-type: none"> 敷地造成、ブロック積み擁壁等復旧工事 校舎外周フェンス復旧工事 講堂解体工事 プール解体、改築工事 	H24 年度復旧工事完了 (校舎) H25 年度復旧工事完了予定 (プール・屋体)
中浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> 体育館、プール解体工事 	H24 年度解体工事完了 校舎はメモリアル施設の構想
山下第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> 校舎外壁、門、床等復旧工事 側溝、地先ブロック復旧工事 空調設備設置工事 	H24 年度復旧工事完了
山下第二小学校	<ul style="list-style-type: none"> 校舎、体育館、プール解体工事 	H24 年度解体工事完了
全小中学校	<ul style="list-style-type: none"> 空調設備設置工事 (保健室・職員室) 	H24 年度復旧工事完了

② 社会教育・社会体育施設の被害状況及び修復対応

施設名	建物等の状況	備 考
中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> 2 階大ホール天井・照明器具等が落下 内外壁に亀裂 (クラック) 損傷 	H24 年度復旧工事完了
中央公民館 (南側法面)	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内南側用地一部法面崩落 	H25 年度復旧工事予定
体育文化センター	<ul style="list-style-type: none"> 屋根ブレースの一部が破損し、館内設置のスピーカーが落下 西側外部柱頭部 2 箇所、東側外部柱頭部破損 施設の内外に、亀裂 (クラック) 損傷 ガラス一部破損 体育館内床 (フロア) 浪打 (高低差発生) 	H24 年度復旧工事完了 H25. 2. 1 開館
町民プール	<ul style="list-style-type: none"> プール周辺にヒビが入ったため水漏れし地盤が変状 プール外壁及びフェンスが倒壊 	H24 年度解体工事完了
第二体育館	<ul style="list-style-type: none"> 屋根・柱の骨組みのみ残存。外壁は崩落し屋内には大量のガレキが流入。床面の変形・浮き上がり 	H24 年度解体工事完了
笠野グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> バックネット等が流出し、グラウンドとしての機能を果たせない状態 	被害が甚大なため、原形を留めていない状態。復興計画に合わせ土地の再利用を検討

③ 指定文化財の被害状況

文化財名	建物等の状況	備 考
茶室・大手門・板倉	茶室の壁の一部が崩落するとともに、大手門土台に亀裂	H24 年復旧調査済み H25 年度に周辺整備予定
蓑首城跡	神社の灯籠が倒壊	H24 年度復旧工事完了
大條氏御廟	墓標が倒壊	H25 年度に復旧工事予定
八重垣神社	建物が流出	H24 年度指定文化財解除
唐船番所跡	東側法面が崩落。石碑も倒壊	H24 年度復旧工事完了
中島館跡	標柱が倒壊	H24 年復旧工事完了
井戸沢横穴古墳群	標柱が倒壊	H24 年復旧工事完了

V 点検評価に対する学識経験者の意見

○ はじめに

平成24年度の教育基本方針に「今後の復旧・復興に向けた課題解決を最優先に据えて、学校、家庭、地域、そして教育委員会の総力を挙げて取り組むことにする。」と述べられています。大震災から2年目の強い決意を感じます。課題を踏まえて基本方針や重点施策に検討を加えながら、大震災からの復旧・復興に向けて、多様で膨大な課題に取り組み、成果を積み上げていることに対して、そのご努力に敬意を表します。

提供された点検評価報告書と資料を基に意見を述べることにします。

1 教育委員会の活動について

定例会の開催回数や定例会に付された審議事項が多くなっており、復旧・復興の新たな課題解決に向けて審議され、処理されています。

教育委員会の職務についてはその重要性が認識されるとともに、開かれた運営が求められています。

2 教育関係経費決算の状況について

前年度比16.2%増、文教施設災害復旧費については92.9%増の決算額です。施設の復旧や改築等が進められています。それに伴い関連業務が増大し、厳しい職務となっていると思われます。維持修理費と貸付金が62.1%、50.0%の減となっています。活動に支障がないか懸念されます。事業推進に必要な予算、人員の確保と適切な執行をお願いします。

3 学校教育の充実について

(1) 山元町小・中学校教育環境整備検討委員会の設置

① 学校教育の最大の課題である二つの小学校の併設状態の解消に向けて検討委員会で協議を重ね方針がまとめられました。住民の意向を丁寧に取り上げ進められてきたことは協働を目指す基本方針に合致します。

② 「山元町小・中学校教育環境整備方針」が策定され、学校再編が進められています。教育活動が円滑かつ充実したものとなるよう教育委員会の指導と配慮をお願いします。今後の学校再編に向けては「関係の皆様の合意形成を図りながら教育環境の整備を実現していくものである。」の方向で、一日も早い山下第二小学校の校舎新設を期待しています。

(2) 小学校及び中学校の防災教育

① 各校の防災教育への取り組みが、取り上げられています。評価項目を重点化することは教育委員会の事業を点検評価する課題の一つと考えます。その観点から、今後も、教育委員会の取り組みについて評価できるように改善を図られることを望みます。

② 教育委員会の重点項目に基づいて、平成25年度の防災教育全体計画が作成されています。PDCAのサイクルで創意ある教育課程の編成に取り組んでいます。

③ 各学校の置かれた環境により実情や課題に違いがみられます。防災教育等の学校課題は地域の課題にもなっています。家庭や地域への周知を図り、協働の方向で教育活動を進めることが効果的です。

(3) 学校給食

食品放射能測定システムによる週2回の簡易検査を実施し、安心・安全を確保しながら学校給食の運営が進められています。学校給食の課題は地域の食の課題でもあります。

4 生涯学習の推進について

(1) 生涯学習の充実

① 「協働によるまちづくり」を高く評価したい。地域の課題解決に向けて地域住民が取り組んでいく協働の営みは今まさに地域づくりに求められている方向を示すものと考えます。機会をとらえて周知を図ってください。

② 施設の復旧工事や修繕が進み、様々な施設を活用し大震災以前にも増す多様な活動が行われています。住民の要望や町外の支援活動に応えるとともに関係団体の育成と支援、そして連携に最大限努めていることに感謝いたします。

(2) 生涯スポーツの推進

体育施設は修理や放射能の除染が行われましたが、廃止された施設もあり活動場所の確保が困難になっています。仮設住宅出前教室の取り組みはユニークです。跡地の活用を工夫していきましょう。

(3) 魅力ある地域文化の醸成

情報交換会から協議会へ格上げして伝統文化の再建を進められています。また、工事や造成に伴い集中的に発掘・調査・記録が進められています。緊急事態に対応した取り組みが求められます。

再開された施設で本物の芸術に触れる活動が昨年度の2倍も開催されました。関係団体との連携を密にして、夢と感動を子供たちに与える機会を確保して下さい。

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

避難所や物資倉庫の役割から解放され、施設本来の目的に活用されつつあります。利用者数の大きな増加は町民の要求の現れです。運営の方法を検討しその要求に応えていきましょう。

○ おわりに

- ・大震災からの復旧・復興に全力で取り組み、教育活動の充実に向けて事業が推進され成果が表れていることを高く評価します。
- ・今後の課題として、①P D C Aを意識した担当者による内部評価の実施 ②そのための評価の観点の検討をお願いします。
- ・長期的な児童生徒の心のケアが重要になってくると思われます。また、教職員、町職員の心身の疲労の蓄積も懸念されます。人的配慮をお願いします。

元山下第二小学校長 鈴木 守

VI 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第1項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。